公衛協 ア・ラ・モード

まちの環境点検のウォーキング

見て知って防災のきっかけに

【府中市公衛連】

㊸ 防災の視点

4月6日(土)、府中市の元町地区公衛協主催の「元町ふれあいウォーキング」が開催され、地区の住民約30人が集まり、約9キロメートルのウォーキングを楽しみました。このウォーキングは定期的に開催され、毎回、工夫を凝らしたコース設定がされています。

今回は、参加者の交流と土砂災害について考えるきっかけを持ってもらおうと企画され、満開の桜の花の下でのお弁当、17年に1度のご開帳となる青目寺(しょうもくじ)へ参拝、7月豪雨災害の崩落現場の視察などのプログラムが準備されました。

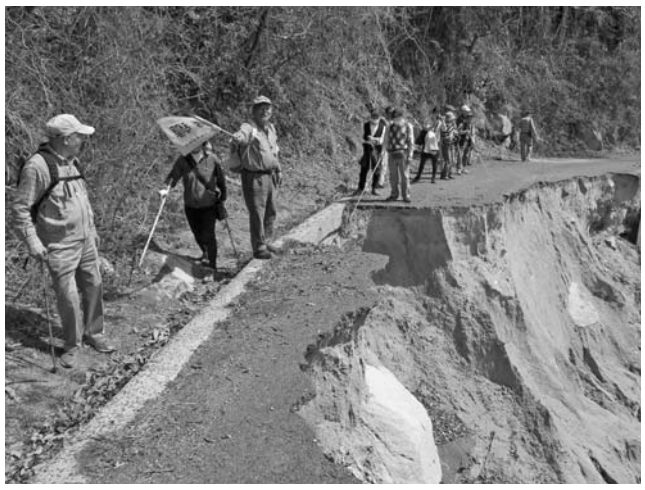
ガイドをつとめた自治会の体育文化部長の宮川さんによると、7月豪雨災害で発生した土砂崩れにより、ため池が欠壊し、ふもとの小学校まで土砂が流れました。今回崩れた場所の少し上流には、『七ツ池』があり、これらを巻き込んだ土砂崩れが発生した場合は、元町地区にも土砂が押し寄せてくる可能性があります。崩落現場や周辺の環境を自分の目で見て、災害への備えや環境変化の緩和への取り組みについて考えてもらえれば良いと企画のねらいを語られました。

実際に崩落現場では、「山ではこんなことが起きていたんじゃ」「早よう直さんと、また崩れたら怖い」「避難場所を確認せんといけん」などの参加者の声がありました。

ゴールの府中公園では、お弁当と交流を楽しみました。弁当箱は持ち帰り容器で、ごみの削減も呼びかけました。

また、当協会の貸し出しグッズ「モバイルフォトプリンター」を利用して、その日撮影した写真を渡すと、大変喜んでもらいました。

これからも、地域の健康づくりや環境づくりの思いを込めた取り組みの展開を期待します。



崩落現場を確認する参加者

母子が地域で交流する機会をつくる

未来を担う子どもたちを健やかに

【廿日市市大野公衛協】

㊹ 母子保健の視点

大野公衛協の推進委員は、区長・副区長・組長・女性会役員・母子保健推進員から構成されており、公衆衛生の視点から健康や環境をふまえた母子支援を展開しています。

50年目を迎える母子保健推進員は、昭和43年(1968年)10月に11人でスタートし、現在は28人で活動しています。母子の身近な存在として支援する母子保健推進員のさまざまな活動は、当時、先進的な活動として注目され、現在も継続して活動している地域が多くみられます。

現在では、EM石けんづくりをとおした環境保全活動の取り組みや食育推進の活動として、カルシウム入りのおやつの提供や紹介、食チェック事業など個人の食生活の見直しの機会づくり、イベントで子どもにも分りやすいよう食を題材にした劇(カルシウムマン)の上演を行なっています。

また、地域支援に欠かせない取り組みとして、赤ちゃん訪問を行なっています。この活動で、子育てに関する情報などの紹介とともに、親の不安や悩みをしっかり聞きながら、寄り添った対応をしています。

近年、核家族化がすすみ、相談相手や友達づくりが難しくなっていますが、親子参加型の教室の開催や地区での育児サークル活動など、母子が地域で交流する機会をつくることで孤立化を防ぎ、子どもの健やかな健康と母親の育児不安の軽減を図り、産後うつや虐待防止活動にもなる大きな役割を担っています。さらに、読み聞かせを切り口にした子育て支援など母子保健事業のサポートで幅広く活躍しています。

これらの母子保健推進員の地域に根ざした活動は、未来を担う子どもたちが健やかに成長するための環境づくりであり、しいては地域住民の健康や環境を守るための活動につながると思い、日々笑顔で取り組んでいます。

これからも環境と健康の両面で地域コミュニティを守る活動の展開に期待します。

(地域活動支援センター)

読み聞かせをする母子保健推進委員

広島県の気象

④緊急地震速報の活用

強く揺れる前に揺れをお知らせ

「警報」と「予報」の2種類

緊急地震速報は、地震の発生直後、強く揺れる前に揺れが来ることをお知らせする情報です。この速報には、発表基準により「警報」と「予報」の2種類があることをご存じでしょうか。

警報は、最大震度5弱以上の揺れが予想された場合に、震度4以上を予想した地域に発表し、人が強い揺れから身を守るために活用することを主目的としています。このため、対象地域にいる方になるべく幅広く迅速に伝えるため、主にテレビやラジオ、携帯電話・スマートフォン(緊急速報メール)を通じて伝えられます。

予報は、警報よりも低い最大震度3以上またはマグニチュード3・5以上と予想された場合に発表します。警報と比べると発表頻度は多くなり、必要とする場所の予想される震度と震度4以上の揺れの到達予想時刻を知ることができます。この予報は、列車の速度制御や工場の機械制御等で活用されています。また、家庭用の専用受信端末を使って自宅でも利用できます。専用受信端末によっては、強い揺れの到達予想時刻をカウントダウンしてくれる機能もありますので、強い揺れに対して事前の備えが取りやすいというメリットがあります。

予報を受信するためには、民間の予報業務許可事業者と個別に契約する必要がありますが、手軽にスマートフォンの緊急地震速報受信アプリを利用する方法もあります。

なお、緊急地震速報は、地震の発生を検知して揺れの予想を行うものなので、広島県内やその周辺で陸域の浅い地震が発生した場合、震源に近い場所では、緊急地震速報の提供が強い揺れの到達に間に合わないことがあります。

緊急地震速報の警報と予報とでは発表基準が異なることや、それぞれの内容や特徴を十分理解したうえで、予報を上手に活用し、強い揺れから身を守るために役立ててみてはいかがでしょうか(**発表基準等は別図参照**)。

(広島地方気象台　地震津波火山防災情報調整官　北野　明)

発表基準

○詳しくは気象庁HPでご確認ください

緊急地震速報(警報)・・・最大震度5弱以上の揺れが予想された場合

緊急地震速報(予報)・・・最大震度またはマグニチュードが3.5以上と予想された場合

種　類	内　容	主な伝達方法
緊急地震速報(警報)	・地震の発生時刻、震源、地震の規模 ・震度4以上が予想される地域の名称	テレビ・ラジオ・携帯電話・スマートフォン・防災行政無線など
緊急地震速報(予報)	・地震の発生時刻、震源、地震の規模 ・震度4以上が予想される地域の名称 ・予想される震度 ・震度4以上の揺れの到達予想時刻	民間の予報業務許可事業者が提供する専用の受信端末、スマートフォンの緊急地震速報受信アプリケーションなど